

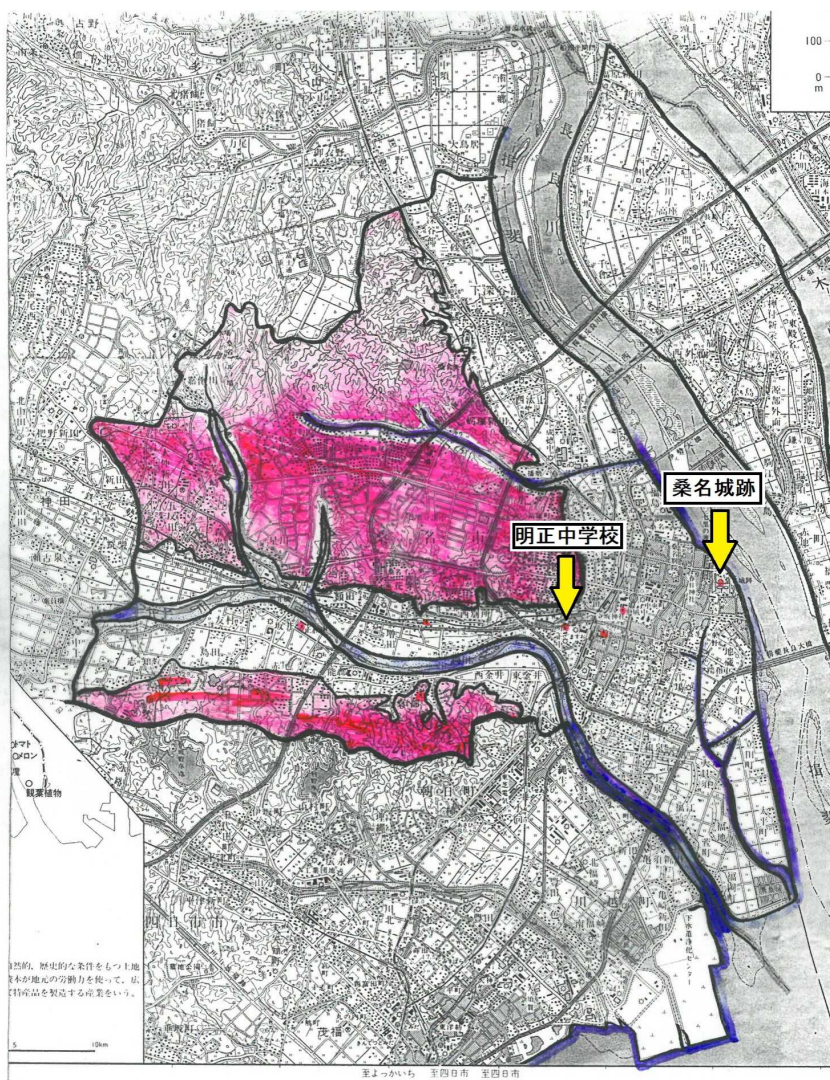
慶長の町割り

桑名藩は、慶長5(1600)年の関ヶ原の戦いの前から家来であった本多忠勝(ほんただだかつ)が藩主になりました。忠勝は、慶長6年(1601)桑名に封ぜられてから積極的に町づくりを行い、町中へ三州に分かれて流れ込んでいた町屋川を上野、金井間あたりから塞きとめ、流れを変える等現在の街並の大部分を完成させた都市計画事業です。これを「慶長の町割り」と言います。(桑名市HP)

「慶長の町割り」以前には、町屋川は走井山の下を流れ、矢田の地で3本に分かれ揖斐川に流れ込んでいました。この町屋川を現在のように安永の南に付け替えることにより、一帯は連続した陸地となり、多くの人が住み活動する現在の益世地区の平坦部の基盤が出来ました。(益世地区自治会連合会HP)

本多忠勝:初代桑名藩主として、桑名城の全面改修と慶長の町割を行った。

桑名城は文治2年(1186年)桑名行綱によって築かれたのが始まりとされる。(HP城郭放浪記より)



町屋川の流路が明正中学校近くで不自然に曲がっている。